

西部緑地公園再整備構想検討委員会
第1回 新県立野球場整備検討部会

石川県立野球場の現状と課題

2022年9月1日





石川県

位置図・アクセス



石川県立野球場 (西部緑地公園)

 自動車	・金沢駅	15分
	・金沢西IC	5分
	・小松空港	25分
	・金沢港	10分

 路線バス	・金沢駅	17分
	平日5往復/日、休日5往復	
	・金沢駅	32分
	平日6往復/日、休日4往復	

1. 石川県立野球場の現状について

<沿革>

- 昭和49年 野球場完成・供用
- 昭和56年 照明塔設置（6基）
- 平成2年 スコアボード改修（電光化）

<施設概要>

- 大きさ 両翼91.5m、中堅122m
- 観客席数 17,126席（内野11,126席、外野6,000席）
- 仕様 内野クレー、外野天然芝（ブルペン：屋内2レーン）

<利用状況（H30）>

146日間/年

- ・中・高校野球 58日間 プロ野球 6日間
- ・大学野球 21日間 その他（社会人等）61日間

<参考>

- ・県西部緑地公園内に位置し、陸上競技場や産業展示館とともに「スポーツ」と「賑わい」の拠点
- ・春夏の甲子園に向けた石川大会の決勝戦が開催されるなど、本県高校野球の聖地



2. 現在の園内施設

園全体

都市計画決定 : **S48.11** 公園面積 : **54.8 ha**
 種別 : **運動公園** 駐車台数 : **計4,079台**

陸上競技場

竣工 : S59.5月
 面積 : 35,850㎡
 (建築面積 : 6,607.2㎡)
 収容人数 : 21,068人

産業展示館 (4号館)

竣工 : 【I期】H4.5月
 【II期】H6.3月
 面積 : 9,160㎡
 (展示面積 : 6,675㎡)
 ①~④展示面積計
 17,718㎡

テニスコート

竣工 : H10.4月
 面積 : 27,300㎡
 (建築面積 : 276.2㎡)

県立野球場

竣工 : S49.6月 規格 : 両翼91.5m
 (夜間照明塔 S56.6月) 中堅122m
 面積 : 20,179㎡ 収容人数 : 17,126人
 グラウンド : 14,066㎡
 建築面積 : 5,559.1㎡

産業展示館 (1~3号館)

竣工 : ①S56.8月
 ②S47.6月
 ③S49.3月
 (S61.4月増築)
 面積 : ①4,422㎡
 (展示面積 : 3,193㎡)
 ②3,015㎡
 (展示面積 : 1,641㎡)
 ③8,008㎡
 (展示面積 : 6,209㎡)
 ①~③展示面積計
 11,043㎡



いしかわ総合スポーツセンター

竣工 : H20.3月 面積 : 52,398㎡ (建築面積 : 18,065.9㎡)
 機能 : メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニングルーム、屋内プール等

テニスコート

竣工 : H10.4月

3. 課題と再整備の方向性

■ 現状・課題

- ・段階的な整備の結果、施設や駐車場の配置、園内動線が分かりにくい状況
- ・県立野球場、産業展示館については、築後45年以上が経過し、狭隘な上に老朽化が進行
- ・県立野球場の両翼が91.5mと現行のプロ規格（99.06m）に不適合

■ 再整備の方向性

県立野球場

〔新県立野球場整備
検討部会で検討〕

- ・現在の規格に合致する広さに拡大
- ・観客収容人数を増加
- ・選手ファーストのプレー環境の充実
- ・石川の未来を担う子どもたちに夢と希望を与える野球場

産業展示館

〔新産業展示館整備
検討部会で検討〕

- ・1～3号館を統合・大型化。4号館に近接させ、一体的な運用を図る
- ・間仕切により、様々な規模の利用に対応
- ・大型コンサートや全国的なコンベンションなど多様な用途にも対応
- ・産業振興のみならず、賑わい創出や交流人口拡大拠点としての機能も強化

駐車場・緑地

- 〔西部緑地公園再整備構想検討委員会〕
で以下について検討
- ・園内に散在する大小の駐車場を各施設から近い位置に集約・効率化
 - ・大型イベント時、出入りの混雑緩和
 - ・緑地、多目的広場も集約・大型化し、県民の憩いの場、子供の遊び場、野外イベントの拠点としての機能を充実

こうした課題に対応しつつ、

さらなる賑わいの創出に向け、新たな施設・機能も含めて公園全体をプロデュース

4. 新県立野球場整備検討部会における検討

① 整備コンセプト

② プレー環境の充実

③ 誰もが楽しく観戦できる環境整備

④ 将来を見据えた機能的・効率的な設備の導入

⑤ 他スポーツ利用を含めた、にぎわいの創出

5. 検討事項（①整備コンセプト）

〈考慮すべき事項〉

社会の動向
(外部環境)

人口減少社会における持続可能な公共施設マネジメント

公園周辺を含めたまちづくり・賑わいの創出

環境配慮・地域貢献の必要性

ユニバーサルデザイン・新技術など
快適性・先進性に富んだ施設計画

野球以外の種目も含めた稼働率向上・複合化による
年間を通じた施設の稼働

プレー環境の充実及び観客も楽しめる空間づくり

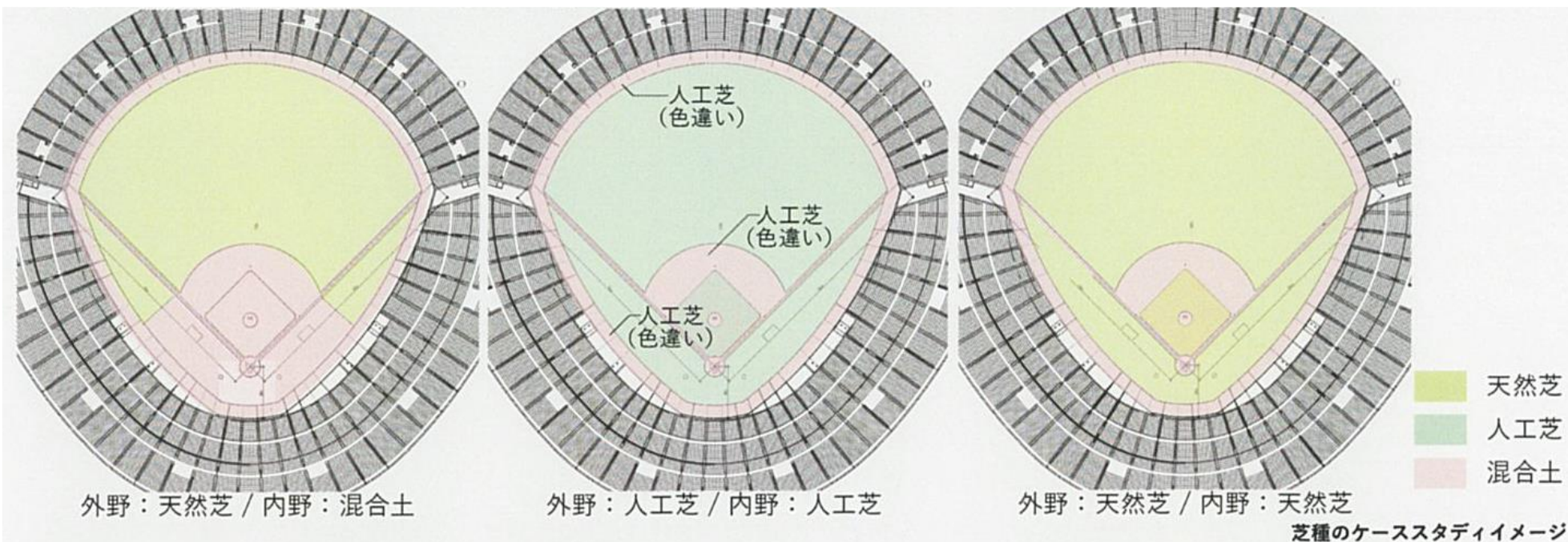
検討の視点

子どもたちに夢と希望を与える
野 球 場

スポーツや賑わいの拠点となる
野 球 場

5. 検討事項 (②プレー環境の充実)

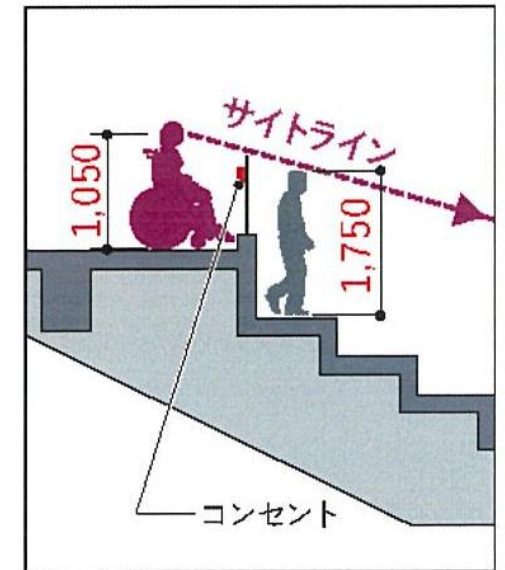
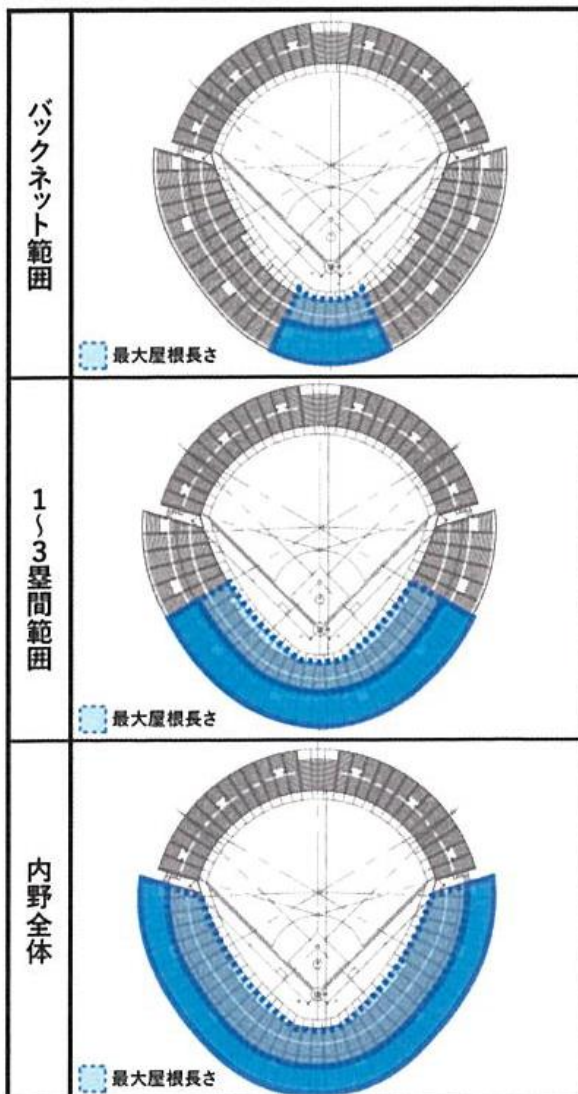
- ・ 国内外の事例、地域のニーズ、公園内施設との関連性を分析し、これまでの本県での興行事例を踏まえ、最適な施設規模を検討
- ・ 冬季、雨天時の利用を想定し、室内練習設備についても検討
- ・ 天然芝、人工芝の特性、野球場の利用形態を踏まえ、芝種、芝範囲の考え方を整理
- ・ 女子野球プレイヤーが利用しやすい施設整備



5. 検討事項 (③誰もが楽しく観戦できる環境整備)

- ・ 観客の視認性、臨場感の向上を検証し、最適なスタンド構成を検討
- ・ 屋根（銀傘）の設置など熱中症対策の検討
- ・ バリアフリー化による障害者にやさしい球場の実現

屋根平面範囲案



前の人が立っても見える車いす席



5. 検討事項 (④将来を見据えた機能的・効率的な設備の導入)

- 今後の、情報通信技術の進展を見据え、ICTによる運用効率や快適性向上の可能性を検討
- 環境負荷軽減や脱炭素社会に貢献するための手法の検証
- 長寿命、低管理コスト設備の導入
- 広告収入などによる収益向上



5. 検討事項(⑤他スポーツ利用を含めた、にぎわいの創出)

- ・ 他のスポーツ利用も含めた野球ゲーム開催日以外の活用方法の検討
- ・ 公園施設と連携し、賑いを生み、また来たいと思える施設のあり方を検討



6. 今後のスケジュール

- 来年夏頃までに、検討部会を複数回開催し、構想を取りまとめ
- その後、西部緑地公園再整備構想検討委員会（親会）において、民間活力（PPP/PFI）導入可能性調査を実施
- 令和5年度末までに、検討委員会（親会）の最終取りまとめ